

作業に入る10分前、ボクサーのように集中力を高めるんです。



スクラップは種類ごとに分けて保管し、ダンプに載せてシャフト炉まで運ぶ。

「タークズや密閉物なんかは混ぜておくことがあります。それらをシャフト炉に投入してしまうと、成分はずれや爆発を起こす危険があるので、しっかりと取り除いていかなければなりません。ここに来るまでもにチェックがあり、不採用品が混ざるとは稀ですが、ここが最後の砦だと思つて特に気をつけています。」

「どんなところにやりがいを感じますか？」

「やることが多いと言いましたが、スクラップを運んでくるダンプへの指示もその一つです。スクラップの種類別に來るんですが、渋滞させないよう注意しつつ、ピットの具合を見てどれから入れるかを見極めます。全ての作業を同時に行うので、技術だけでなく、集中力や判断力が必要になります。思い通りに作業が進んだ日はビールがおいしいんです(笑)」



主任 根本光さん

「明るくて何事にも意欲的。頼もしいです。」

「上から見た小野さんの「現場力」」

天井クレーンだけにとどまらず、自身の多能工化にも積極的です。常に明るく、安全面にも率先して気を配り、どんな意見も言ってくれるとても頼もしい存在。ゆくゆくはリーダーになって風通しの良い職場を作ってくれることでしょう。



投入したスクラップの重量が表示される操作盤。「誤差0が出たときは最高の気分!」

「神経を使った後のリフレッシュ方法は?」

「詰所の風呂に入っているときに一番幸せですね。まさに「このときのために仕事しているな」という感じがします。」

「これらの目標をお聞かせください。」

「まだまだもっと良い職場にできると思っています。オープニングスタッフだからこそ、これから先輩たちのために、安全で働きやすい職場を作り上げていくことが自分たちの使命だと感じています。」

「気をつけていることは?」

「スクラップの中には不採用品と呼ばれる、モ」

「意見を交換し合って?」

「そうですね。「こうすると早く運べた」とか「この気をつけたほうが良い」とか、操縦している気がついたところは他のメンバーにも伝えるようにしてきました。何もかも手探りの状態から、自分たちでアイデアを出し合つて、問題を二つひとつクリアしていったんです。最初の頃は、とにかく何でも試してみました。今はみんなプライドが高くて、「俺のやり方が一番だ!」と思っているんじゃないですかね(笑)」



操縦室は意外に広い? 2人が背中合わせになり、2台のクレーンを操作する。



JFE物流を支えるのは最前線で活躍する現場の皆さん。彼らの「現場力!」を紹介します!

京浜物流 原料部・スクラップ物流室

天井クレーンオペレーター 小野進さん

数種類のスクラップをレシピに合わせて配合

2008年8月に操業を開始したシャフト炉。ここに鉄の原料となるスクラップを運び入れているのがスクラップ物流室です。運ばれてきたスクラップをマグネット式のクレーンでシャフト炉に投入するのは入社3年目の「職人」でした。

シャフト炉の天井クレーン。最大9.5tのスクラップが吸着できる。

「ここではどんな作業をしているんですか?」

「マグネットに鉄を吸着させるタイプの天井クレーンを使って、スクラップをシャフト炉の投入口の下で待つ台車に入れていきます。単純に運んでいけばいいというわけではありません。スクラップはグレードや成分などで8種類ぐらゐに分類されるんですが、Aが何t、Bが何tというように1つの台車に載せる重さの配分がその時々であらかじめ決められています。そこからプラスマイナス300kg以内に取りめなくてはならないんです。」

「どうやって重さを量るんですか?」

「台車に載せたときに重さが表示されます。逆に言うと、クレーンで持ち上げている間は見た目でだいたいの重さを判断するしかありません。寿司職人が手のひらでご飯の量を感じ取るのに近いですね(笑)」

「難しそうですね。」

「単純に見えてやることは結構あるんです。運ばれてくるスクラップを溜めておくピットも、時々ならしておかないと山が偏つてしまったり、つかみにくくなったり、新たにスクラップを流し込むときに溢れてしまいます。次の台車が来るまでの時間が4分。3種類のスクラップを1分ずつ使つて投入した後、残った1分をピットの整理などにあてています。」

「シャフト炉は2年前にスタートしたとお聞きしました。同じような作業の経験はあったんですか?」

「天井クレーンの経験はあったんですが、このマグネットを見たときは、まず大きさに驚きましたね。オープニングスタッフとして採用された我々には「先輩」がいなかったので、何でも自分たちでやりながら技術を身に付けていきました。」